

モーリシャス豆知識・小話 第15号

2018年7月

在モーリシャス日本国大使館

(1) 子は国の宝

先日、東京で5歳児が父親から虐待を受け死亡したという報道がありました。最期はやせ細った身体で、覚え立ての字で、両親に許しを請う文章を綴っていたという記事を読んで、私も本当に胸が塞がれる思いでした。

モーリシャスでも児童虐待なんてあるのかな、と思っていたら、当地でも最近、13歳の女の子が”宗教的な結婚”を強いられ、妊娠して死亡したというこれも痛ましい事件があったようです。この事件を機に、子供の人権をいかに守っていくか、こうした慣習をいかに変えていくか、真剣な議論が巻き起こっているようです。

更に当地では、麻薬の売買が一般市民にも蔓延しているとは聞いていましたが、なんと中学校で生徒に合成麻薬を売っていた輩がいた、との記事がありました。麻薬対策は本当に急務の課題のようですが、先日ラジオを聞いていたら、警察が押収した麻薬を紛失したとの報道もあり、啞然とするばかりです。

一般的に、子供を取り巻く状況はどの国も厳しいものがあるようです。当地は治安も気候もよくて子供達ものびのびと生活しているとばかり思っていたが、考えを変えないといけないほどの状況なのではないでしょうか。

一つ確かなことは、そうした安全な環境を作っていくのは我々大人の義務であるということです。どの国であれ、子供達にはそんな環境を確保してあげたいものですね。



(2) こんにちは日本です！をモーリシャスで。

7月24日、当館加藤大使と共にモーリシャス・テレビラジオ局（MBC）を訪問しました。皆さんもよくご存じだと思いますが、高速道路 M1 でポートルイスを目指してサイバーシティー方面から走ってくるとモカ地区に差し掛かる前の下り坂に入る直前で右側に見える大きな建物です。MBC は当国で唯一のテレビ局、国営ですが政府からの交付金等は一切でておらず、運営は主に国民の受信料で賄われているそうです。

職員は 700 名、建物自体中国の贈与でメンテナンスも現在中国人スタッフ 10 名が常駐して対応しているそうですが、そうした契約も 2019 年で切れるとのことで、これを契機に MBC の機構・運営自体を刷新して急速な通信技術の発達に遅れをとらない組織にしていきたいと、迎えてくれた MBC の会長さんは説明してくれました。



MBC 会長と加藤大使

2018 年に入って当館はこの MBC と今後の協力・連携を模索して、既に 1 回目の協議会を実施していたのですが、この日は会長も交えて 2 回目の会合。会長自らのお出まし、加藤大使の出席ということで、冒頭からテレビカメラが回り、同日夜のゴールデンタイムのニュースで両者のインタビューを交えてその模様が放映された次第です。皆さんご覧になりましたか？

会合では加藤大使が日本紹介 DVD であるジャパン・ビデオ・トピックスシリーズを会長に贈呈し、また国際交流基金プログラムとして実施している我が国放送コンテンツ紹介事業を説明しました。詳細は今後更に詰めていく必要がありますが、うまく行けば当国でも、当館を通じて無償提供する日本の紹介番組、日本の映画、テレビドラマ、ドキュメンタリー、アニメ、バラエティ、更には教育番組などが遠からず放映されることとなります。

右事業を通じて、広くモーリシャスの人々に日本を知ってもらい、親近感を持ってもらい、更に二国間の友好親善、交流が深まればよいな、在留邦人の皆さんにも祖国の番組を楽しんでもらう機会が増えればよいなど、ミーハーな私はテレビカメラがこちらに向かっているのを意識しつつ、しかしカメラ目線にならないように必死で自分を抑えながら協議に集中したのでした。